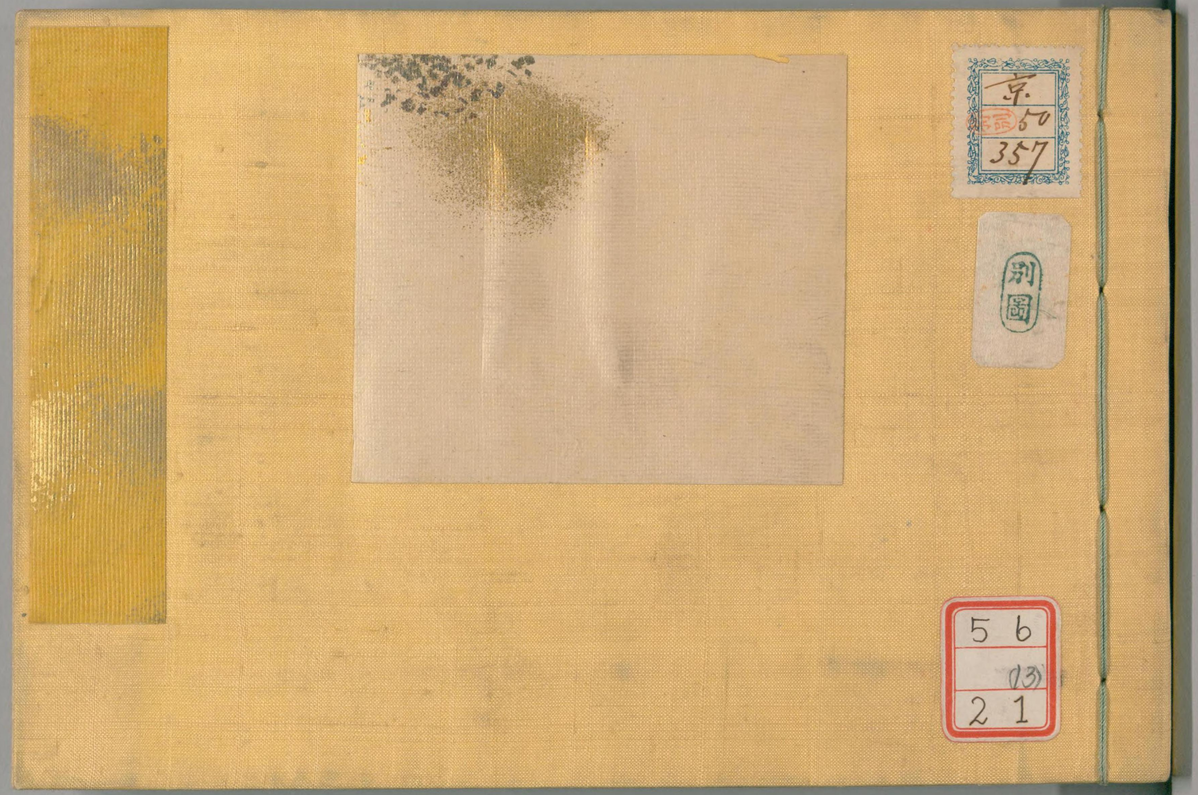
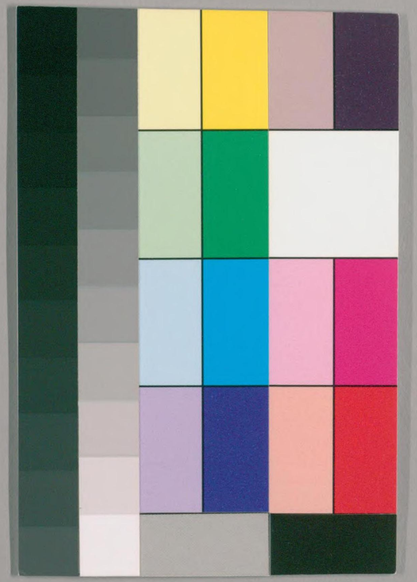

京
50
357
別圖
5 6
(13)
2 1



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

十

白楽天

志賀

白髪

呉服

養老

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

白樂天

装束之覧

初シテ面朝倉尉　襟浅黄　着付小格子　白大口
水衣シケヒケ　腰帯ドンス　扇髪　釣掉　釣糸
墨画扇
但菊呑之時ハ着流シニテモ太シテ水衣冝シ

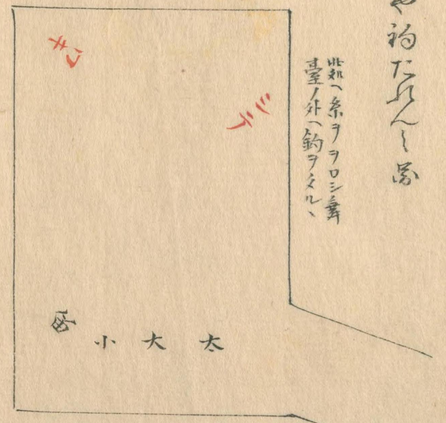
男連　襟クチバ　厭半目　白大口　水衣肩上ケ
腰帯紋付　墨画扇　釣掉　釣糸
但菊呑之時ハ着流シニテモ太シテ水衣冝シ

後シテ面皺尉　着付色呑厚板　唐織
白地金入狩衣　腰帯紋付　白垂　冠ユイ
神扇

ツレ舞附

●真ノ一声扇コシニサシ釣竿右ニカタケシテノ先ニ立テ出一ノ松ニテ足トメ右ヘトリシテヘ向ツメ足ノ謡イ出ス高砂ノ通リ●乗色ノ謡スミプタイヘハプタイノヘン中ニ正面向キ立居●つきろ〳〵天を刺さ〳〵トシテヘ向●さく〳〵に此ノ二ノ字ヨリシテトハ入替リ後見出テ釣竿後見ヘワタシ扇ヌキモチ目付柱ヘ出正向立ヲル●そもハ〳〵土カワキヘ向●日なの多恵をシテヘ向●私

なふるゆゑとトワキ〳〵向●ゆや〳〵ト正面へ直シ少
切ニ左へトリ笛ノ止メへユキ正面ヲウケテ下ニ居ル●中
入ニ立シテノ囃ニツキ入ル



●ゆや〳〵と松虫鈴虫（右ウケ）
（ワキニ足ヲ正ス）
これをき事土舟のうら人を（ワキニキヨリワキヘ）
樂天と云ふ（ムツカシキヲヲカレコレカハル、トユヨロシテ正ス）
ゆかうそうめんのうきむつりやと
（ワキ向ニ足ツメテモヨシ）
云ふ人のおはしまさねばそもさも

（狗ノ六ツシキ高倒ナラヲカヲヤト云心持ニテ正ヘ直シ狗掉左ノ手ニテ
一ツ持掉ヲ前ヘガシクリ出シ糸ヲ見テ右ノ手ニテ掉ノ本ヲ持糸ヲ見テ
左ノ手ニテ川ナリニホドキ右ノ手ニ掉糸一緒ニ持左ノ手ハシワキ正高
ナカラ左足ヲ出シ左足ヲ出シ左ヘヨコタヲシテ狗ヲヨタヘル様ニ
向ヘ糸ヲヲケル右目ヲ狂ノキハニテナゾ糸ヲヅタノ外ヲヲスヲ目前ニ
ヲキ頭ヲ下ル様ニシテ狗掉ノいとまを）

狗なめん〳〵と狂ふぬつきまろ
（私ヲノ四ニテ狗タレ居ル内ヨリ掉ヲ立ル糸ハシヲ左ノ手ニテ持掉糸
一緒ニ右ノ手ニ持掉ヨコニヌ左ノ手ソヘ後見迄ノクツロキ掉ステシテ在ノキハ
ニテ正）
永と迫なり〳〵

又
立帰り後へ樂天
（ワキノ拍子左ニテ一ツフミテモヨシ）

（正先ニテ右ノ足右ノ方ヘフミ出シ左ノ足モフミ出シ目付柱ヘ向ヘ
フクリ込）
（両手上ヘ上ケ右ノ足右ノ方ヘフミ出シ左ノ足モフミ出シ目付柱ヘ向
下ニ居右ノヒザツキ左ノヒザタテ）
空海ふ（袖ニキヲラス手ワキ袖ニヤキ立ル心ニテ）
（袖ヲキナカラ立チワキ正面ノ方ヘ少シ出カケ）
（直ニ夫ヨリ二立左ヘ廻リナカラ右ノ足左ヘ廻リ左足ヲ出シ笛ヨリ
ヒカヘ向右ノ足フミ出下ニ居左ノヒザツキ右ノ手ヲタテヘシテ柱ヘ向ナカラニテ右ノヒザヲタテ左ノヒザヲ
ワキ立ハ向ナカラ左右ト出ナカラ左ノ袖ヨコニヌラニテ袖モヨシ左ノ袖ヲシン右ノ足トニ足ツメ）
ものぐるほ神りせふ吹とそされて童ぶ
（ワキ立ノ方遠ノ見）

●釣竿糸モトニテクルヲスツコキニノ引ケハ直ニホドケルヤフニクリ込ク

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

初シテ舞附

●真ノ一声扇前ニサシツリオホ右ニカタケテ出橋掛ニテ足トメツレト向合ツメ足メ右〳〵ト踏ヒノト謡イ出ス高砂ノ通リ●常ノ拵謡キリカシ右ヘ向キナカラツリサホヘ左ノ手ヨロケ右ノ方ヘヲロシツリサホノ中ホト右ノ手ニ持直シフタイヘ入充ツリサホノ先キ前ヘ出シ持シテ狂ノ内ヘ入立足出足トメ打切ニ足下リ謡ノ地〳〵ト謡イ出ス高砂ノ通リ●越ヲ拵セ〳〵トツレ〳〵向●ヤア〳〵ニ此ニノ字ヨリツレト入カワリ中ヘ行高立ヲル●ヲンナそハワキ〳〵ヲンナ正●日本の事ゑをツレ〳〵向●ホまたワキ〳〵へ

二足ツメ

あ〳〵ら綾つゞ〳〵ら

上ニ向 正

今やく〳〵松

左ヲケテ

ゆ〳〵しかんそよく〳〵ゆきき

正直ニ二足出

ツリ杭向

ゐ土船乙〳〵ら〳〵。樂ヲ舞ふそうの

正直ニ

ハ何のそ〳〵めの〳〵へさ〳〵ヤ〳〵

ヤく〳〵ゐ〳〵ら〳〵ハお言葉とゝ

ワキ〳〵向

二足ツテモヨシツメテモヨシ

ツリ掉ヲロシテホド

釣掉乃眼おや給そ〳〵〳〵

甲

扨〳〵ゑくさまの毎とも五穀〳〵

ゑ漁業。樵ハ勿論乃事ハ何

事もとゝくあるふそ

ニテ

よ〳〵のまを放ひあひて

甲

唐ゑ

ニテ

給と能て遊ふよ

甲

ニテ

ゑんく〳〵乃心を顧ひ

甲

ニテ正ヘ直ス

ハいつまゝ

文ゑ唐土

乃治賑〳〵ゑまの治賑ともつく

我朝乃舞とてこれ三番とや

を拝もとゝくぞさふらふ

ワキ〳〵

ゑ〳〵ゑ大和舞とてゑりめさ

二足ツメル

ゑ〳〵ゑくら〳〵ゑ義乃心を顧ひ給へ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

志賀

志賀

装束之覧

シテ　面小牛尉　尉髪　白大口　シケ水衣　ドンス腰帯
　　着附小格子厚板　扶　扇前ヘサス　但扇アレバ大口ヨリ
　　ヲイ紫桜ノ花サス　絹ナレバ此ヲ不サシ
　　作リ花ナリ
連　ハナシ髪　熨斗目　水衣　腰帯　扇モツ
後シテ　面邯鄲男　紅白段厚板　白大口　袷狩衣
　　紋有　腰帯　黒ダレ　赤金入錦巻　透冠
　　白骨神扇

シテツレ附

●扇モテ高砂ノ通リ出ノ松ニテシテト向合ツメ足シテ
謡出ス●山桜ト謡出●ムかきニテト向合●ゆるらんト謡切
リ舞台ヘ入リ中ヘ行正●人丸ヲヨシテト向合●ハノ分ノ上
シテト入カワリ目付柱ノキワヘ行●又奥ヨリキワヘ●左ヘ
クラシテヘ●そノ分ハ愈ヲ以ワキヘ●こハいかに正●ノ分ヨ
ハ愈ヲ以笛ノ上ヘ行下ニ居シテ中入ニアトニツキ入ル

舞附

扶右ニツキ負栄安達原ノ通リたノ級左ノ肩ヨリ前ヘトリ
右ノ級右ノ脇ノ下ヨリ前ヘトリ両級たリノ手ニテ一ツニ
持級ノアてリたリノ手ニテク真ノ一声ニテ出ル高砂ノ通
リ橋掛リニテツメ足シテツレト向イ合シツメ頭ニテ波
やト謡出ス扶ツキ出ルユヘ扶ニスガリ太笑ナル心持ヲ
ノ心得アリ●春なれてや正向ノ公なきツレト向イ合イ
●ゆるらんト謡切リツヽケニテ舞台ヘ入ル舞台ノ内
ニテ高砂ノ通リツヽケ一ツニテ少シ出足たリニテトメノリ
合テ左右下リ山路ト謡●人丸ヲヨツレト向イ合●ヲヲた
ヌもヽ等ヲツレト入カリ中ヘ出正たリニテ足トメ●作袈
てワキへ●左ノ分ハ正●ヲ人もヽ富ワキへ●又奥ヨリ
正●唯莉のおそさふワキへ●右ヘクラツレト向合●そ分
ヨ愈せぬワキへ●もるしゆやワキへ二足ツメル●こハ
いかに正●いやく古ヲめワキへ
波大津乃春重りかをゝ花ら春辰
私尋ねうとめのそ（ワキ）（ワキ）（ワキ）（ワキ）
おく里消えし（シテ）まゝ君重（ワキ）老い蔭ヲ
を思ふ分あとおもふさを（ワキ）（ワキ）（ワキ）
の思ひよ花（扶ノ足一ツフミヒラキ出掛ニ一ツツキ右足一ツツメ）（たへ）（ヲリ）
や仏ん（たへ）（ヲリ）実や秀逸
や実を（シテ柱ノワキヨリテワキへ）
の松のうらうら（シテ）

それ〳〵こうら〳〵 叶代を尊うら延喜
の聖代おおん〳〵國を治め民をかそく〳〵万
機のまつりごと次第のもよ 御れハそ山
叶ふもつらく和学の名望へまして古今
の歌学を探ひ二聖の歌仙を始として
その外の人〳〵ハ世人の誉れをひろこう
梅よ桜き春れ誉ふ雨乃名よ深めく
言人のおハ花まなとや 実櫻木れ
人多れ惜ことわざ迄の情とや 松籟波
津濱吾山の伝尽〳〵山の井れ浅きおハ浅ら
思ひ吉乃底を霜吾ら天照れや涙の玉
砂〳〵数多き云の葉れ外の名書とも
も神代や変路道ゆら代のそて 恵

御れハそ〳〵一文字の神そも護〳〵ふて
空見頂おのや東を感恵〳〵乃更てそを安
全ま多民叶をおし〳〵みてとひ四海乃
雲の下四海八浪の外とそ浪の声多蒙
の響ハのとゆうきう 学をつくき良
叶代ひをまよ多つの政との道をくう
わうらの東菊ま書ふう西ま風粉
まて云ふのまや〳〵ふうめくや花を吉
盤の山松高巻ようこの声とそ名和寺
の緑ふそへ〳〵や天地をうこう〳〵花非
そうんをふんとうや 実やとおう山緑
のく〳〵永遠行くの末おそん南〳〵さ公成
〳〵 今ハ何をうはて重くきそ左ハ

大体の春とハいふれ共 時代とて也
山の神さへ人やうらやん
▲ダノ引ニワキへ
の神そとハいはさや面八大体の 更
五トト云ルカニ春ヲノバシ
八百万の春の名ハ 大体の 我ハうた
上同
薪をよ友をもとめてひとり山路若菜
のうけよ春やとそうたふらん
右ヘヨリ
夕の雲ハ立つゝれて志賀の
うくひすハ 中入
いさよふ雪の山ぎは
神うらゝかに 暮ハかすみの 花の陰
月よ詠しくあまの原時の調よふう
◁出端ニテ
笛ノ内ニテ正面ヘツケ出
橋カヽリ一ノ松ニテ
足トメヒラキ謡フ
つゝもる岸松乃春とあるとハ
なしテ上
をしく 雪ハいく世の神をそ
いまゝ花ハふるさと乃志賀の山越く

も回し花そのゝ雪も春のゝ近江乃
海の志賀寺崎乃雲風もくもれ
春乃春ハとをさよ海こゝろよく
くそむる鏡山 地正ヘ直ニ 舞ヘかゝる身ハ老
うこそ ニテ それハ老うこそ 正ヘヒラキ 老ハ志賀乃
地両袖ツエトリナガラ舞基ヘ入
神のあらはれをまつもかとしもふ
正ヘヒラキメツバイ
しや神楽乃まひ 神舞 ▲ゆふまぐれ地正
上ワキ地正
山人のゝたちこゝ乃春ハ永と日を
▲舞ノトメ
左右ヘ込
ヒラキ謡
ヤハリ
▲袖モヒラキ
ソノマヽ
海る和光のあらたけよ 実情も ニテ
春ハ来り代乃長閑さ久や春乃花
正ヘヒラキ
乃塵ゝ 正ヘヒラキ
正ヘヒラキ込ヒラキ
ましくもあるかしはゝもあ
ましくもあるかな
上地角ヘ行角ヨリ
実色
てまた乃風聲もうらゝかに神楽の

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

シテ左へ廻り
小忌乃ころも乃色そへて

も袖乃白和幣　シテ中小廻り　松ハしらちえの

地 ワキ坐ヨリ太刀ノ鞘ヲ見テ太刀ノ前ヘ行
花ハこ

地正へヒラキ
青和幣かゝるや　右へノリ　かざや榛ゆゑある　正へ直シ出

乃山色をたえ春くまハ道も去あく　サシ廻シヒラキ

そちる花乃雲の袖を返しつ　左引左ウケル様ニ左ノ手高ク上ゲ正ヘツカツカト出　左フミ込左ノ袖カヅキ通リヘマキ込

つきまとふ井乃御跡のそはとや　又右ノ足左ヘフミカケナガラ右ノ袖マキ込大小ノ方向イ　シテ柱ヘキワニテ右ウケ

又柏ゑをそろへて袖かへさるやり　左ヘノリ込ナガラ両袖前ヘナゲヲロシ

面白さハかなてこつれし　左ノ袖カヘシ右ウケ二足ツメトメ拍子スル

志賀

装束之覺

シテ　面小牛尉　尉髪　白大口　シケ水衣　トンス腰帯　ヲイ宗（櫻ノ花サス作リ花ナリ）
　着附小格子厚板　扶　扇前ヘサス　但扇アレハ大口キル扇ナケレバ先ヅ大口ナシ

連　ハナシ髪　尉并目　水衣　腰帯　扇モツ

後シテ　面邯鄲男　紅白段厚板　白大口　袷狩衣　紋付腰帯　黒タレ
　赤金入鉢巻　透冠　白骨神扇

シテツレ附

●扇モチ高砂ノ通リ出一ノ松ニテシテト向合ツメ足シテ謡出ス●山探ト謡正●かなきシテト向合●あるらんト謡切リ舞臺へ入リ中ヘ行正●人乃萬ゆシテト向合●今井のシテト入カワリ目付柱ノキワヘ行●又更深きワキヘ●去程らシテへ●さ井小庭をぬワキへ●こハいかる正●井まハ庭を奴笛ノ上ヘ行下ニ居シテ中入ニアトニツキ入ル

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

されば都人黒主の花の陰に
休まんごとしや今の世も業と詠しく
貫之の言葉にもこのものゝ津ゝらい
ワキ おもへは今の道とうやく
こゝろは時代と移わるうぬ延喜の聖
代のいぬ上國を恵ミ民とふて万
機のまつりごと治めおゝふ 御宇ハ
こゝろ御時のおろつく和歌乃為さりむ
ましてや古今乃詠者と撰ひ二聖六
哥仙と始ゝしくそのかれ人ゝの歌
の首れりひも徳のか林の言葉の末
の紫の露乃ぐようこゆく家人の
あうい花よ咲とゝや シテ まこに深理

ロトノ孔ニ正ヘ直シナカラ左ヲ一ツフミヒラキテ八扙一ツツキ右ノ足ツメテ出
左ノ足一ツフミヒラキ扙前ニツツキ右ノ足一ツツメ
左ノ足フミヒラキ扙中ヘ一ツツキ右ノ足ツメワキヘコトバリ
返シ二而出服ヘノキ右ノ足フミトメ夫ヲ引下ニ居ヲイ宗トリ扙下ニヒラキ正袖ヲロス此時後見後ロヨリ肩衆扙トル肩ヌキ持大ロトチガイ着流シニ一ツタヲスボメ下ニ居ル

早乾に さは大伴乃黒主の心とゝめし名残
シテ 和歌乃うらのか浦の ワキ 明たる
とく出語乃 シテ 名(?)黒主 ワキ 是は
シテ 滅よ さまし賤しき ワキ 山かの
肯 あうくの態をわするあまさいゆるさ

舞附

扙右ニツキ 夏宗安達泉ノ通リ左ノ紋左ノ肩ヨリ前ヘトリ右ノ紋右ノ服ノ下ヨリ前ヘトリ両紋左リノ手ニテ一ツニ持紋ノアマリ左リノ手ニマクノ真ノ一声ニテ出ル高砂ノ通リ橋掛リニテツメ足シテツレト向イ合シツメ所ニさゝ波やト謡出ス扙ツキ出ル㐧ヘ扙ニスガリ太夫ナル心持老人ノ心得アリ ●春まかれてや 正向ノおかきツレト向イ合イ ●はうらんト謡 切リツヽケニテ舞臺ヘ入ル舞臺ノ内ニテ高砂ノ通リツヽケ一ツ三ツ少シ出足左リニテトメノリ合テ左右左ト下リ 山ぶト謡 ●人宮業平ツレト向イ合 ●容なりしむかしもさまよりツレト入替リ中ヘ出正左リニテ足トメ ●須畏て ワキヘ ●たのくへ乃 正 ●ま人もゆふ寓 ワキヘ ●又見涼き 正 ●唯花のおとさうふ ワキヘ ●玄殿らツレト向合 ●さ穿な慮せぬ ワキヘ ●ゆるしをへや ワキヘ二足ツメル ●こハいかま 正 ●いやく 古郷の ワキヘ

白髭

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

白髭

装束之覚

初ヒテ　笑尉（朝倉尉ニテモ）　尉髪　着附小格子厚板
ヒケ水衣　紐子腰帯　扇　釣竿　一噐童子
小宮
直面　放髪　着付無地厚板　引目　寄水衣
腰帯　扇　釣竿
後ヒテ　鬼畜悪尉　萌黄金入鉢巻　白垂　着付
色無地厚板　半切　烏帽子　白地金襴狩衣
腰帯　扇
天女
増（ニテモ）連面　髪衣　同帯　黒垂　天冠
着付箔　白大口　腰帯　長絹（舞衣ニテモ）
扇　天燈
龍神
黒髭　赤頭　色鉢巻　竜立　着付厚板
腰帯　法被（カタハヌグ）　半切　打杖　龍燈

初之連

●釣桙カタゲヒテ先ニ立ツ松ニテ足トメヒテ向合一セイ謡出ス●初ノクセ終リト謡正ヘ向三地開キ居ト謡ヒ面ヲ向合●謡留リ那ト謡ヒ舞台ヘ入リ中ヘ行正向居●急ノ謡ノ向合●地ノクセ〳〵ヒテト入違ヒテ桂ノキハニテ釣桙後見ヘ渡扇ヲ持目付桂ノキハ正向居●拳モ急ノリノ送ヒニ笛ノ上ヘ行下ニ居●入セカヽリ〳〵ト立入ル

龍神

（燈面手ニ持打杖右ニカタゲニテ
イロヨリ早笛ニテリニ段ニテ
向ニ）
天地の始まりより（出ヒテ桂ノキハニテ足トメヒテ）
神の
（逆ヒニ正先ヘ出）
（桂ノキハニテ小廻ヒテヒラキ）
（表ヘテサシ廻ヒテ右ヘ廻リ）
（下ヒテ舞働カヽリテ後ヘ廻ヒテ小廻ノ作リ物ヘ向右ノヒラキ居）
（今春日ノ明神ノ通ヒノ小廻ノ作リ物ヘ向右ヘヒロリ作リ物ヘ向右ノヒラキ居）
（ハタラキ段ハ本ノ通ニテ小廻リ右ヨリ廻リ右左ト伯ニ三ツヅヽ左ヘ廻リ右ヘ左ヘ二ツヅヽスル）
（立正ヘ向居）
（正ヘ出）
（右ヘ廻リ込）
（上ヒカケノ下ニ居正ヘ合ヒテ先ヘ）
（合ヒカケノ左ハ袖ヲ上ヘスル）
（ヒラキ左ハ袖ヲ上ヘスル）

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

天女

イロヘニテ燈両手ニ持出舞臺ヘ入リ一丈臺ノ九リノ方ニ立正向足トメルト早笛ニナル

天地の雨露行きて

逆ヒ出竜神ト一所ニ左ノ方ノ燈臺ニ燈ヲ七

神ゟ

小鳥の游ひ花も来り山河草木の

扇ヒロケ正ヘ直居

草も月日あまねく照らす川へさす

△

△舞働吹出シテ角ヘ行左廻リ中ニテ
拍子二ツフミ正ヘノリ込ヒラキサシ

かくて夜もすがら明るくて

右ヘ廻リ作リ物ヘヒラキ竜神ト一所ニ下ニ居

夜もすがら月もあまねき神のみ明

シテヘ面下ケ

立正ヘ向

神ハ此殿中に入る明神も此の如くあ

扇タヽミ竜神ノ後ロ通リ入ル

けに善哉しまつて天女ハ

湖面をかまへ立りつゝ龍神ハ湖の

あらたかに波をけたて給ふ

天地にひゞきて浪さわぐかな

雨露のしく神風治る代こそあらはれ

〻舞附

釣竿右ニカタゲ扇前ニサシ一声ニテ出ツメ足シテ謡出ス惣テ高砂ノ通故ニ委敷ハ不記
モイ二人

釣竿の暇もなみにつりをしひくも波の

正

ツレ

あまの身の業 棹さしかへる小舟

ツレト向合

文

うきよをわたる一葉の舟

浮世をわたると謡切リ棹ヲロシ一寸見左ノ手一寸ソヘ右ニテ棹ノ中ホド持直シツヽケテ高砂ノ通舞臺ヘ入リ中罷キ三足下リテシテサシ

風帰帆

送る翠里の程に入る湖さしてすゝく

文

向合

いふたよりあり 舟帰ハころもの

雨おもしろやころもをゆらし寄せ

衣やころもひて峰をもろ花咲く

下ゲ

も白日かな 眺しき海士のこゝろ

上ゲ

追手社のこゑかけ花さそふ

良の山も嵐かなし 漕ぐ船も

汀の面の海水もなく

国立国会図書館　　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

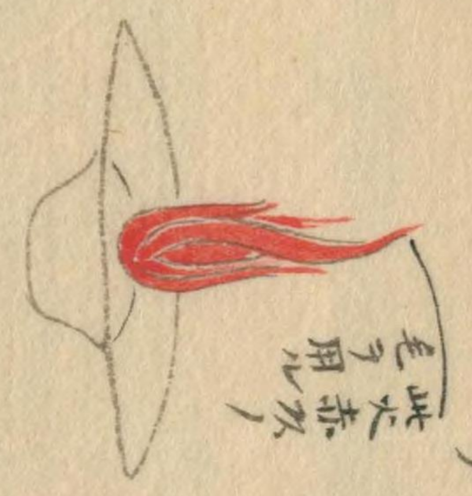
ガラス使用

わうて天津層かへ御おし〳〵流れ山近
（コノモノ字ヨリツレト入カワリ中ヘ行正）しかりめかに清〳〵しきかな〳〵
ワキ詞 いかに是なる白翁 汝ハこの浦の者か
シテ詞 ワキヘ さん候この浦の漁父にて候なり〳〵
沖ふ出釣〳〵のれはま何年経見
年も久しくこのあたりにすみ候ふか
年ふり候老人にて候
ワキ 扨ハ浦の旧事をもしりたるか 正 寔よく見てもあらはの事
先ハ当国の住人なり はかりかたし
往昔のさきの御事夢のお告けありし
まかから勅使にて来臨申てハ シテ ワキヘ 何り
難やさしてかうあはまて敬ひ
まふ御神の御威光の程こそ有りり

たり難 二人上 ツレト向合 いやしきあまのこの身迄
ワキヘ しる恵ありし御代にあふみの海まれ幸ぬりき
ワキヘ二足ツメル 恵ミら猶おしかり ワキセル 正 ありかくれても
君恵あふき猶ありがたやまふるあゝいかさ
りめくミふかあつ〳〵さ〳〵ん シテ ワキヘ向ナカラ二足ツメル 難文こいハ
ワキ 何〳〵 上音 正 いつもこの年も経ぬりり
志る葉の〳〵 右ウケ 神の誓ハいつとて
（モノ字ヨリ正ヘ直シ出）もう〳〵さう〳〵 ヒラキ 実有難やたのもし
角ヘ行 や我いこゝろも 角トリ左廻リ あらこゝに舟釣の翁
我かゝうも安くたのしむこの世に生
シテ拄ノキハニテワキヘヒラキ 綾あふ身ハ有難や〳〵 返シニ高砂ノ通リ中ニ行 下ニ居棹ステ 正ヘ向キ扇ヌキ持此時水衣ノカタヲロス ノリ地 是に
国豊かにて勅〳〵に仰ぐ御をめく
御門かしこきその世またく〳〵なりし

ソレとも皆くきんを日宮乃一ツ義かとう
いま地獄にかろうつゝ後たいくのきんろ
う人寿二万歳なりしとき下ゲテかせう仏
當西天に出世しおはし日大乗妙典
を志めきを以て都率天に住した
まひしるシテ上家ハ相成道なし後也い
きう流布なる地ハ法色の済ニ有為き
こて曰この車撰記部を前く記以し
て修覆しきは海んとさあり大海
まうへに一切衆生悉有仏性如来常
住無有変易なるおみかうくへ一業の
節かむりしはまつさびさ川の路なる添
昇へ名の大宮櫻現乃さししその方り

色
其後人寿百歳なる時悉達こ生れ
まして八十年の春の頃泥北西面右



あは煩し宣へいかしてかや
家人寿六十歳乃砌より此山にこ

して十四日七夜まで〳〵雲雨かぎり
なし（ワキ）汐も満ちる見えうしお羽衣（ワキ二ノ上）
共花もつらいとなりあゝいぶせや
風しづまり〳〵（ワキ）情こそ出せ秋の月かく
（ワキ）なれば（ワキ二ノ上）富士の高嶺おがめ〳〵（上ゲテ）（ワキ）
東方ながら忘らるゝ事のあるまし
薬師如来と出現ましてこゝもとの国土衆生
この地ふ仏法をひろめ給ふ事よあゝ
寿ことほぎもむしろ共仏の玉た
まこと光翁いまさら沙汰なんぞは
山水清ふ声澄むとかや閑閑たるすゝ
むこの山乃主となりて共ふ陵立百業の
仏法を守る事しかと〳〵せいなく〳〵し

△ 多しとて二体（ワキ二ノ上）毒蛇となりのぶ（ワキ）
翁も乃れ（ワキ二ノ上）翁の神とや（ワキ二ノ上）
きかうことなかれとて（ワキ二ノ上）
〳〵翁乃（ワキ二ノ上）
八幡沢うたもあらいとも（ワキ二ノ上）
これ翁ありう動役を勤めよとて
〳〵ふ来〳〵う強吏ぞ貴
天狗龍蛇神ふか来現乃国安かれ
（ワキ二ノ上）〳〵神せよ（ワキ二ノ上）
（ワキ二ノ上）
光の海もとう〳〵（ワキ二ノ上）
（ワキ二ノ上）
（ワキ）
（ワキ）
ひら〳〵社檀ふい〳〵（ワキ二ノ上）

地 八しほの立つ袖も名ごりふきかへす塩竈
声すごうて神さびそふる松の木ずゑ
シ 遥ニ上 作り物ノ内ニテ謡ア 神いくよをかさぬらん
とそ思ひ〳〵立ち出る神の姿あらたまの
てもおぼゆるありさま上音ゆ〳〵しき社檀の
うちうち〳〵謡かゝへの出
扇出し一扇もたのつゝみあをれ玉ふかと
うち謡ひの祭る神のすがた引廻トル
ヒラキ ワキ上 ゆ〳〵百敷の御幸やかゝる
特ふかきみ代も唯ただ君のこゝろもたゞ
地 波風神おさまりて国やすく〳〵と
ワキ 舞楽の曲おぼえしほい
勅使ありてさゝめ上音 正 神楽さい

地 もろ〳〵ぞ上ふ〳〵 作り物ヨリ正ニ出 名所ある役
〳〵秘曲おほくし抽ん出ろくてあ
遊乃舞楽いかめしうして ヒラキ 正ニ 遊乃舞楽いかめしうして 袖ヲ下ニ ありしろや
ワキ 舞楽の曲おぼえしほい
シ こゝ舞楽乃〳〵 ゆ〳〵しかりけるありさま
正ニ出 破うの 右ヲ引袴ノ方ヲ見 松風の琴〳〵ぞもやし〳〵
地 波のこゑ 左ヲ引正ニ直シキク心持 百代すめる
ふあ 三ノ笛ノ方ヲ大ク見回シテ左ヲ左ニ サシ回シワキ柱ノ方ヨリ大ク見回シテ左ヲ左ニ
ふあ 三ノ笛ノ方ヲアトヲシテ柱ノ方ヘキワ一行 ふあ
う〳〵舞かゝ〳〵やもいそうそう湖あの面白の神
もりいの天女の舞袖 角ヲ三ツアタリ右ヘ回リ作リ物正面ヨリ上ル 袂ヲ左ニ右ニ振ル 天地
地 かな面白あ〳〵りがたの〳〵神の前ふか
波の底の宮ゝ山海神よかゝもろ
ワキ 日本のさうもあ〳〵うこそさうらへ 下ニテ
地 あもそやあをうのうちにて夜もそふけ
たふるもいと 左右ヘ天女ト龍神ヲ見 あの〳〵神の御殿ゝ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

うつゝ共明神も出給ふとあるをてがら
うれしく宝しのゝいで天かいあ海面ふ
まもなう出る龍神いで潮あのよふかけ
ほて海底へしづこんでうろうろして天地
かうろうろしてまひさうなをいで河げ出る
入たノ袖巻込右ノ足左へ向ナカラ右ノ袖巻込
シテ柱方ヲ見シテ柱ノキハへ行ル正面袖ヲヒラキ左ノ袖カヘシ
なかもとゝ幕ゆくゝ神風治る
四代こそ有ける

蝉丸

●おもしろけれ〳〵●云ふうゝ夜もすがら
●琵琶といふさゝゝ松風も引すまひてそ
●袋ハそうさうさ●のゝそうよしもうゝ
●頃ろ〳〵迷ふりといふん

△此印ノ孔ニシルス

白髭

装束之覚

初シテ　面　笑尉　朝倉　着附小格子摩枝　水衣カタトル　腰帯
前シテ　面　朝倉　着附小格子摩枝　水衣カタトル　腰帯
釣掉糸舟右ニカツク　釣アレバ白大口常ハキナガシ　尉前サス
ハナシ髪　着舟壺ヲ目　ヨリ水衣カタトル　釣掉シテト同断
前アレバ白大口常ハキナガシ　白骨扇腰ニサス　腰帯
後シテ　亀癋大悪尉　鳥甲　白タレ　金入白錦巻　白地将衣　着舟摩枝
半切　腰帯　白骨神扇　床机
作り物　一畳臺　中宮　大小ノ二ツ　西方へ燈臺舟ル

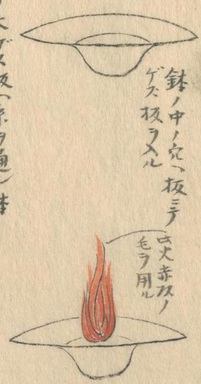
シテツレ附

●釣掉右ニカタゲ扇コシニサシシテノ先ニ立高砂ノ通一声ニテ出橋掛
ニテシテト向合ツメ足シテ謡出ス●うそられんト謡キリ正●海士小
舟シテト向合●うれもく狂ト謡キリ高砂ノ通リ舞臺へ入リ中へ行
正●あらしハシテト向合●戯浴の山とモノ字ヨリ高砂ノ通リシテ
ト入カヘリ太ク坐ニテ後見へ掉ヲ渡シ左ノ手ニテ右ノ袖カヘ右ノ手
ニテウシロノ扇ヌキ持ナカラ目舟柱ノキワへ行正●いやしきの
まシテト向合●虫成ヲキヘ●実流とても正●拳をへまなり
白ひけの左切ニ高砂ノ通リたヘトリ笛ノ上へ行下ニ居●社ヅへな
ふ〳〵せめいけり立シテハ作り物へ入ルツレハ楽屋へ入ル

●天女龍神舞附装束舟矢田六ニ有之　日吉
右段爰ニ不記

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

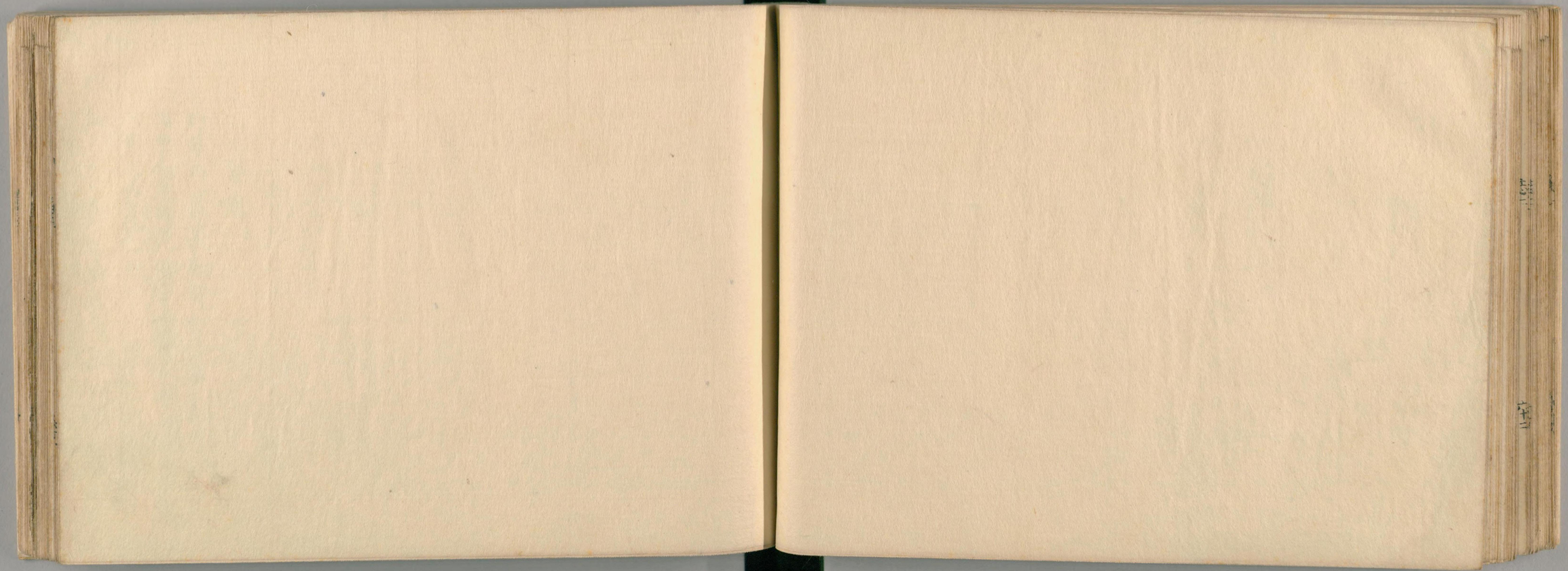
鉢大キサ三寸ノシ曲尺三寸一尺



右ノ火ゲス板ニ糸ヲ通シ鉢ノソコノ穴ニ通シクリ付トメル

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

シテ附

●釣竿右ニカタゲ扇前ニサシ一声ニテ出ツメ足ニテ
謡出ス惣テ高砂ノ通故ニ委敷ハ不記●汐汲ヲ連ン
ト謡キリ正●海士小舟トツレト向合●浮世ノ船ト謡切リ
掉ヲロシ島渡見左ノ手ニテヨトソヘ右ニテ掉ノ中ホド持ナ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

ヲシツヽケテ高砂ノ通舞臺ヘ入リ中ヘ置キ、三足下リ
ヲキヲ聞謠出ス・おもしろの向合・我時の山まで
もコノモノ字ヨリツレト入カハリ中へ行正・さんはワキへ
・実よく正旨哉やワキへ・いやしきツレト向合・直な
るや代にワキへ・新しありワキへ二足ツメル・実謡こ
ても正・財文あおワキへ向ナカラ二足ツメ・ことず垣
乃正・神の姿をび右ウケ・ありてもモノ字ヨリ正
へ直シ出・実ま哉やヒラキ・我おかしも角へ
行・治小船角より左廻リ・されあふこそシテ柱
ノキハニテワキヘヒラキ返シニ高砂ノ通リ中へ行下ニ居掉
ステ正へ向キ扇ヲ持此時水衣ノカタヲロス・その大
ワキへ・あ切ニ正・まさに入たりしワキへ・あ切ニ正・ろ
ろ寂光ワキへ・昔小ち方正

三キトスロヲル上ヘ先リヨ手ノ左シ少シ扱ル上手両時ノ西東▲
ニ心スタワセ先ノ手ヨリ扇ハロモ手両ヨリ手ノ右
テ両手上ル

山乃主やあつくぞすまし五百歳
仏法ともなるへし 物 幼
しるしをなして 仏法東漸の
（手下シワキヘ）その時乃翁も今乃白鬚乃
神なりや
（早打）（正）かくのごとしと

（氣ヲ引立両手上ヘアゲル▲）

げにまこと妙なる神松とりけるお
ことのすがたはめでたかりけり
（ワキヘ）（早打）今は何をかつゝむべき さきざきは翁となりて釣
をたれし翁なるが勅使を慰
めんと今こゝに来りたり
殊更ここは天燈龍燈神前に
来現の時節なれば はや程もなく
緑をそへて宵の間も
返さぬ袖よ 落つる月の
音せぬ浪もあはれなる 釣の竿
みなとをみつる我白鬚の神ぞと
くまもとを押したまふ社壇
に入らせ給ひけり 八乙女

（居立）（下ニ居ナガラ正）（返ニ立）（右ウケ）（右ヘ左ノ足カケ右ヘクツロギシテ柱ノキハヘ行）（ワキヘ）（正ヘヒラキ）（左ヘトリ作リ物ヘ入ル）

正ヘ向キ一ト通リ時ニ作リ物ヘ入レ右ノ作リ物ヘ向キ三ツ程ヒラキ子ヲ正ヘ立テル

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

呉服

装束之賞

異服

天田

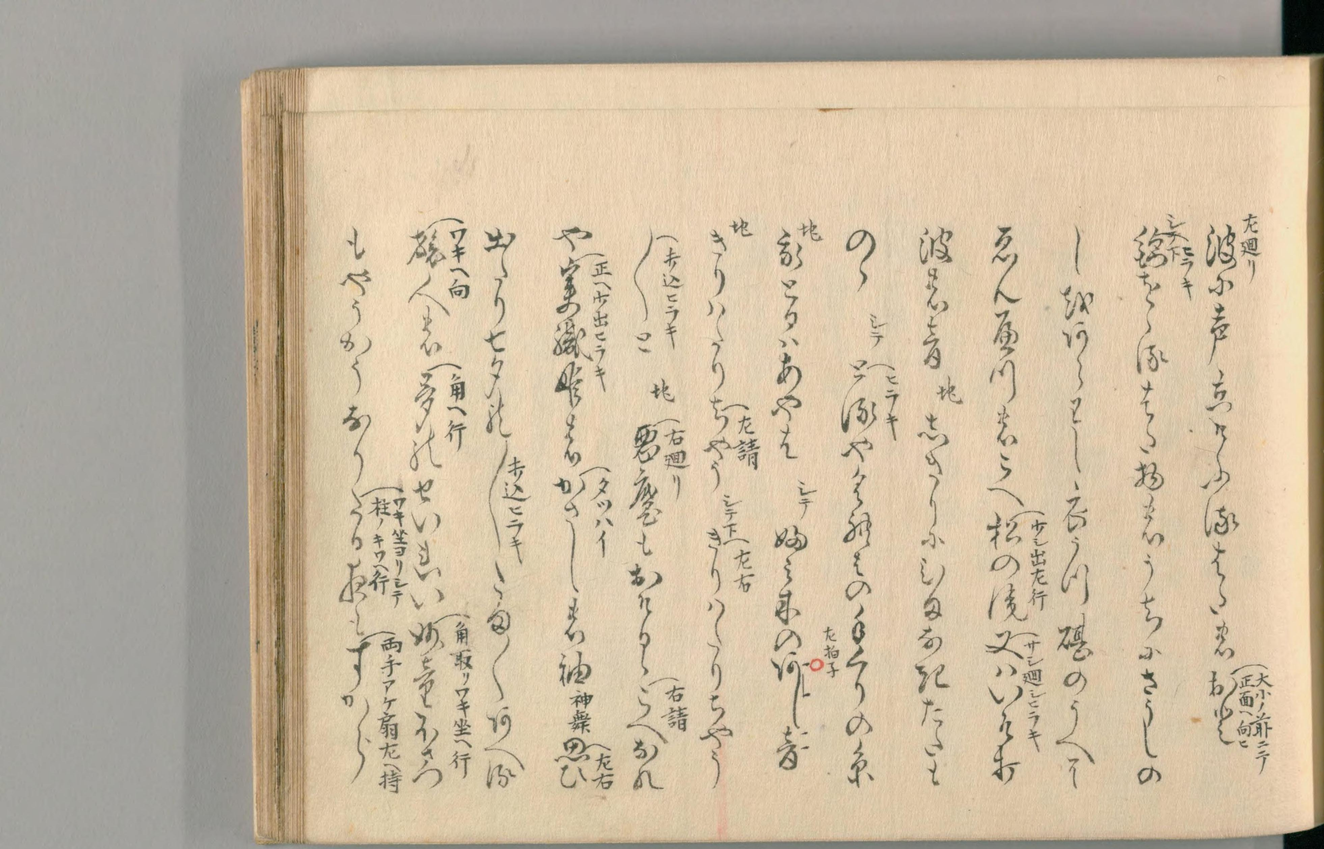
初ニテ　面増　鬘袋　同帯　着付箱　襟
上着唐織　又ハ上着ノ上ニ側次ヲ着テモ　扇
連　面増　連ニモ　鬘袋　同帯　着付箱　襟
上着唐織　扇
後ニテ　面　鬘袋　同帯　着付　扇等初ニテ同シ
（舞衣　白大口　黒垂　天冠　唐織並打ニテモ）

初幕ノ内ニテ正面詰ヘ大ヨリ出ル
舞畳ヘ入リ大ヲ座ニテ開ク
代ト謡出ス

後ニテ上

舞附

天田



く〳〵（左ノ手ニテワキノ方ヘ両ツナケル）寶もありあやを織りく〳〵
（右ヲ引扇左ノ手ニテ上ヘ上ケ）新しき糸の御代（サシ角ヘ行）ぞ久し
まれ二人の（角トリワキノ方ヘ行）織姫られは何やはたより
くれはとりあやはの（ワキ坐ヨリサシテ太コ坐ヘ行）そのまゝのこ
つきぬ（太コ坐ニテ正ヘヒラキ左ノ袖カヘシ）御代ぞ目出度代とめでて（拍子二ツ袖モトス）さゝ草

祝言之節
唐織ツホ折下大口ニテモ緋ノ大口ニテモ

日吉

一脇大臣　三人
　一面　着附箔　一唐織　一鬘
一連女
　一鬘帯　一ツバツキ　一扇子
一シテ面 増女
　着付スリ箔　一唐織　一カツラ
　一カツラ帯　一ツバツキ　一扇子
一後シテ
　一着付箔　一緋大口　一舞衣
　一腰帯　一黒垂　一カツラ帯
　一扇子　一天冠

呉服

日吉

ハタノ作リ物出シテモヨシ不出モヨシ
出セハ一セイノウチニ出シ中入ニ取入ル

次第 道あるみちたる御代とてや〳〵

[illegible]

君こゝもとの御覧 ロンギ 柳是まで

當君みつの年 下まり 家

此者ハ摂津の住よしに来り詣ては

又是より浦傳ひし西の宮居

来らまなと存候 住の江や長

聞き給のあさこのかし〳〵 玉藻

つるかめの百人の道も変なる程
はるゝ〳〵あくるれば浦もあとはる
たる呉羽の里小春よきりく
二句聞幕ヨリシテヨリ先一ノ松ニテ足トメ右ヘトリマワシ二人
橋掛リツレ下向合ツメ足一足ニテ同音謡
呉羽ぢうちやの元の浦里ゟ
汐汲ノ女下謡切正面向
手枕くまいや海士乙女ツレ立ツ
海も青〳〵糸の天ツレ向合
音おぎし汐汲舞望ノ人
真中ニ立正面
音おぎし舞望ヘ
シテ柱先キニテ
芝の津の國ゟ
この里小春シテ向合
とくひさしき二人の

着ゟ向合
赤地國小ゆりあのゟ赤唐
のあやおれ女工も昔ゟ思ひ出ふ
月のいふゟ西の海汐遥ゟ
こしのくろ赤唐人は年をへく
愛ゟ呉服の里まくも赤にあら
れる名所ゟ
飛ゟ鳥おそりむらしくる物の
上ゲ
色ゟとかも織唐きぬ着ること織

唐きぬのあなたを乃雲島の道

こゝまて言の葉草乃花をも

きぬの色うへく心ゆくもみち

三下入替り見付柱ノ方へ行　正面立居

きの袖もたへなるかさしかな

入替り舞台中へ行　正面向居

地

ねもすみ吹松ふかきてこゝや

ことゝきく女性二人あり一人をとこ

をおりつれ一人糸竹をひきこゝに

常の里人とみへ何のふるも愛

いのなる人乃　地　恥かしや里と

ゐもある松陰乃うしろまで

一段ニ下ヲ入向　ワキへ

月乃影かまくらの浦波

乃音かたくくもあの音

はつしておもひしかあらんまる

正面直ニ　面下ヲ

正

恥かしや　地

袖をのつゝむ

浪其まゝ常の里人なりて　地　松

陰よかくれあるゝ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

富貴の身換名家の女し
シテ
それも無常のならひにめて（ワキへ）
つきせぬ物を織そめし呉服ごり
（ワキへ向あやにくながら三度ワキへ向キツヾケ）
あやにくと申せしその有とや
うそうきの中代るよに現のあらい
（二足ツメ）
きまつてもまつてもまつてもまつても（まゐらず正）
初てよいい昔の君う代か唐國
よるも波もよしの日あやをう二人
の人なるの夢覚給ふ
ハヤ（ワキへ）何ごとしたる事の後シテ
くも思ひ給ふあるこの里を
呉羽のわたく名をうめも仙方
う重世不の有し形あり（ツヾまき正）
あやにうりをいてき物の糸とり
ひくたくこのゝあやの綾をもなた
ありよあやにうとこいかあり シテ 呉羽うり

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

こいてさぬの袂ひくまをいそも
といつと呉羽まふてゐようつて
ワキへ
そもそもこゝハ何地ぞ正ゐけるハみやうの
あかつきく
ワキへ
そもそもツレへ向合
ツレへあや
とハ何ぐへう二人ハテ向
人なるハやまを祖のあるねとも
正面直ニ
正
そハまうあやかしくかしこも
二村心とゝめし事もワキへ
二足ツメ
心なき
二月正
呉羽まうあやしめ
打切ニ笛座へ行下ニ居
ワキへ
地頭人のうしく
正出
さぶらふよあるすおの都人ハ
ヒラキ
ワキへ
あらら唐人や我らを追ふ
左へウロ
ハ実のうしやまし君の仕ふる
ワキへヒラキ
真中行坐ス正
人の有様やうしく
クセ
こいけい唐呉郡の地より織
うめく女工のなりきいとなむ

り（シテサシ）志ろふは神功皇后三韓
を志こうへ治しよるを日和也矣
朝乃道ひろく志ろの人まく
まひく世の糸日のおい長閑な
ふ乃代の光いおほ泊くて國こ
そたゝ日こゝかなり（ワキヘ）（シテ）東南雲
治りく日（ワキヘ）西ふく風靜かり（正）を魚鉾
天皇ぬ宇かとよ吾國の勅使也

か初く来り（ワキ）引しにおやめいこ
めの女姉をそうへ萬里の塗波
を志のき来く西日影おりなく
呉羽の里ふやまとひまん日みを
つるもおのかしまを識こゝ
後の出衣（ワキヘ）を志る勅使（正）奏後者
しのハ感感てとるよ哀うしを
より名なつく哀詩の御衣乃紋いこ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

なこそ
しつゝ
ちふさ
かしこ
かゑ
定め
やから
みなと
なたも
君の袖
かふりかづけたまひ
つゝそもすそのゝ
きぬしの
張へ
錦をそ
御つかさ

クツの錦の名ある　二人　小事の　有　うし

見つの　すすき　ワキへ　ありつきの　雨を　袖

へ　袋を　少シ居立　とうくまへ　立クツロキ　ちらいと

いひく　共　狂　うあやいうくも

古鏡　立帰リワキへヒラキ　きまもしなうやう　夜なの

ひうと　有もく　夜なうく　こても　有

中入ニテ跡ニツキ入ル　中入　高砂ツレ通リ

たまく　半二字　うれきのやいや

ちらいく　野松藤か　枝おし

て　風も　吹くさらの　時　神の　告とも

出破越　舞甚重入　ヒテ柱先キニテヒラキ　謡ノ　ねくうれしく　拵ニテ　きみう

ねもあやの　羽衣　ものかくく

おつるつまの　岩ほ　なんす　亜

よや　千世を　松の　葉の　ちりう

きえて　亀の　形　まさきのくら

なるまよの　たのしみ　ひくや　後

の　仮　正ヒラキ　くもちりさる　時とうや

此君のうしおき世とも久浪ふ

角取左ヘワリ

色たくそのふもとの苔 ニテ錦

無弥基空中ニテ左ヘヒラキ　身直ニ

を織るも物のうちよりうしの

字をあらハし云うつ塩のうへか

ニテ

恋なの色松の風 みゐうう浪

正行カリサシヒラキ

の音 地 正 おきにひ留おきしるもの

ニテ

ニテ

るや呉羽のまろとのいとも雨

ふゐあやし ニテ ふミ本のあしを

拍子左。

と地 右ウケ きり

ニテ 左右 きり

赤地ヒラキ

ふるもちやうく こ 地 右ヘワリ 悪魔も粉を

ふゐ色なのやまをとりしめのか

ニテ柱右ウケナカラ正ヒラキ

中ノ舞 達拝 五段舞 吉 左右

さ〳〵ろて 森堂 おもひやう

赤地ヒラキ

嵐なの〳〵 ワキ向ナテヒラキ

たまく〳〵あゐふ

旅人の 正二重ヒラキ

袂の精霊 妙童業薩

ニテ柱方へ向 扇左ヘトリ右ウケ

影向なりまる夜もすからよも

羽衣ノ通リ 扇ニテ二ツヲキ

とろたらろあやと織たるく

正先キヘイテ　扇ニテ出

汝君ゆくさもの　扇右取直シナガラ角ヘ行

角トリ左ヘマワリワキ座ヨリサシ扇ニテシテ柱小廻リ

二人の識嗚呼　呉羽あやへのそうくうえき

正ヒラキトメ

くもあやものそうくうえき

ぬうものゝ　右ウケ袖返シトメ拍子二ツ

ハメノ板リ物出シテモヨシ不出ヨシ

出セハセイノウチニ出シヤスク入ル

第二

道のみちのくの　扇ニテ

豊明ん　拍子ハ

なる日下あわ我と同じ播州住

吉よ森清やそしぶ

ゝ見ても浦伝ひしつゝ西の海

糸ゝやさゝねくウヤ狂ひや長閑

さ浪うあさかたうくたゆたう

なるあま人の道も直なる那

波うさゝく湊の浦もそえる

呉服のつゝ　ツレ

ワキ方ヘ橋掛リツレト向合ツメ足二足ニシテセイ

呉服さわやうの衣のうしほさゝ

しくしほやうめ　ツレ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

浪も音する呉の〻松の通ひ路
志きなみの津の国くれはの里に
ぢもみゝく人も三人ぞ着きし国

ふ や す の ぶ を

シテ連附

・二句目幕上ケシテ少シ先へ出一ノ松ニテ足留メ
右へ廻リ・シテへ向キ大鼓ニテツメ足ニテシテ白
杖ヲ拵・海士ヱ女ト訊キリ正面向・志ら京シテへ
向キ扣キ上げ志ぶ沢桝・舞台へ入ル中立正
面・志うて久しき二人乃共ニシテ向合・むら
さき乃まてシテト入替リ柱方へ行・正面
立ニ居・うけまま時迄てトまみ〻ワキへ向・言川シ
ヤモ正面出シ・又あやむもすもワキへ向・おや
ふやさ時へたりまてワキへ向ツヾけ・あられ八補ふ
いとシテ向・異服とまま正面出シ・河やしも先
行ふ様人乃打切ニ笛座へ行下ニ居・中入シテ後ニ
ツキ入ル
高砂ツレニ通リ

舞台へ入 シテ柱先ニテ詰メ
二人向合
二人向合

くわむるへさ〻れ乃やまとに
も織りきぬ忠乃いと為〻だく
今我鳴乃道りきくは出乃楽まの
花の色もあかしとあの友そへて

わとくゝくむゝ乃さの神もと為る
入替り舞台中へ行正面向居
かさしのれく 梅も我も松家
よろくりんの也ハやしなきさ女性之
あはゞ人〻ともをわだ今人〻原とと
アとむこそぞそれひさ常乃里人也
み〻補い又とぞもかとく〻ハめ〻かる人
そかつ〻や里ハ為里なる松陰の
ぐ〻も曇は夕月の影まされ
ワキへ
て浦浪乃声よ寄くる〻〻れの
面下ケ 正
音やしとおもひしまづ〻て出入るや
偲りや 何とつても乃人をう身を
常乃里人〻あまてど此松陰〻あつまる
くれは織〻あや審な〻かめ〻積み

祝言之時
唐織紅入
唐織ツボ折下ケ
大口モ緋ノ大口
一腰帯 大臣三ノ
一連中 一面
一鬘帯 前折烏帽子
一ハツ千 一唐織
一扇子 一鬘

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

来路らへし　是ハ応神天皇の御
宇にくれくにより来りし衣を織りし呉服
とあやはとりと申す二人の者今
又めくミある御代なれハ現にあらはれ
出来りたり　不思儀の者の有様也
うたかひも世ハ昔の君か代に廣まりわ
もなき世のあやをとり二人の者なりける
今現れて世にあらハ世の人に何となくいさ
名をなのれや　かゝやくも心ありて御
かくて呉の里と呉羽のちとせ付けてかも
何故に我此所にあらはれて参りけるま
あやはとりとハ二人の者のたてしつくひ
くゝひくおやの紋ともなれ故か

一シテ　面増女　一カツラ帯　着附摺箔　唐織
一ツレ　面小面　一カツラ　一カツラ帯　扇子
一後シテ　面増女　着附摺箔　一緋大口　一舞衣　扇子　天冠　一カツラ帯

あやはとりとはやありり　呉服とわ
やはりくれのくにとハりあれしと
いつも呉羽とゝてよのをつくりまれ
ゆかしとハ申すわ　さしかりあそ
よりきてふまてらわ　あやとりに
絹へとり　絹世ハ秋くハかりかまれ
中
やましきこり心見も　今世ハ
あやは思しく有りの三村山とよのみ
許もふつしとおりふんたりわ　呉羽
そのあやしめ何ふ機への明月乃
経いふれかまよの鄙よ都へ世の
鹿へと秋くとりくる者の心変
こゝやよきえまよ仕けかへうつる弱く

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

養老

養老

装束之覚

初シテ　面小牛尉　尉髪　着付小格子厚板　白大口
　シテ水衣　油子腰帯　扇　杖

連　放シ髪　着付熨斗目　水衣　腰帯
　扇　水桶

後シテ　面邯鄲男　紅白段厚板　白大口　袷狩衣
　紋付腰帯　赤入金入鉢巻　黒垂　透冠
　神扇

祝言之節ハ唐織ツボ折

ツレ舞附

・扇モナシシテノ先ニ立出橋掛リニテノシテト向合二足ツメ謡フ・帰り
うる謡キリ正・老の彼シテへ向・心うる謡キリフタイへ入中へ行
正面立ヨル・色を草戸のシテへ向・色して入カワリ目月柱ノ
方へ行正面立ヨル・汲かうる低るのワキへ向・よるの寝覚も
シテへ向・菊花の露とハワキへ・実にも此ハ正・老を乃ふ
やしかりし左へトリクツロキツレ先へ行下ニ居・いよやあくと孫を
んシテへ向ずン切ニツレ正面へ直ス・あれて月とへまふよシテ
へ向ずン切ニツレ正面へ直ス中入ニシテノアトニツキ入ル

又

・本附ノ通り勅使まて書そゑよトキハカモワズ正面向立
ヨリテモヨシ又まかるや雲井トワキへ向ナカラ下ニ居ジギス
ルニヨバズ只ワキへ向キ下ニ居ル是ハシテノ心次才ナリ

初シテ委附

・ちうちうるお（ウタイへ入正先へ二三足ホト出ずン掛ニテアト上へ下リ上窘ニテ足トメヨキヨキ、旅人ノ眠ト謡ナ大殺ノヨキヨキ小殺ノヨキハカニワズウノメフ）・旅人眠をやくるえ（ツレへサシ向合左ノ腰ノコシ上ヨリ見下ル心モチ左カホキツレへ向体ハ半分ムク）・勅使まてそれをよる（アトへ二足ホト下リ肩ニ扶アテ左ノ手ソへるを勅やト謡ナカラ内へトリ下ニヒザツキ下ヲ見ル）

雑や雲井（ワキノカホヲ見上ル）・さんぱそよいハ・比御代へ此路つれ乃（左フミ出シ扶一ツツキ十四ノ骨リ立テ前へアヘツテ右ノ下ヲ見ル左右ノ腰ヲノコシ）

・出くる我の泉也（右ノ足ツメ右ノ下ヲ見ヲル）・掬たそうし立より（二足下リ正面へカケ二足ツメテ正へ直スハムリナリ左スレハアタメチクツレルナリ）・実や面白の泉（内へコメテ角ニ行）（左廻り）

・実や為ても [redacted]（ずン掛ニ扶ステル左スレハアトへステル正向扇ヌキモツ此正向ク氷ニテ扶ステヽモヨシ）

・此あふるれ之の（目付柱ノキハニテ右一ツフミ出シ右ヨリ下ニヒサツキ）・瀧さ之へ入と曲るヨリ川立（イノメヨリ十四へコメヘテ上ヨリ大キク下ヲ見ル山の井のノ字モト戻シ少シエルメ内へトリ立　タルコシヨ）

後シテ委附

・我も此山本の（右ウチ右ノチサシ下ケ左ノ腰ヘ川付テ右ノ上ヲ見ル）・方便の御薬の乱や（サシニウスヤフニメ正面へサシツメ）・声のおおとそかしと（右ノ手下ゲ右ノ方へ右左中ト足トモニ向ツヤヒ）

・我ちかしくとして波悠くたり（左ヨリ右左手ニテ二ツヘ手キ出左フミツメ左ノ腰へ寸入レ左ヨリ）（サシ廻シヒラキ）

又

・深やくめ此薬を君来る様を採んで曲わふ深ふ淡ふむいて（内へトリワキへ向テワキへ三足ヨカケル）（ずン切ニ正）
まことをりておそく老をふ先をえて我もそら訓て月を（ツレへ向）
まかよや訓て月を深るよず山路の束のおまでハ（ずン切ニ立クツロキ　アト同断）

又

●（四ヘ下リ左ヘ下リ直ニ中ヘ行ニ足ワキヘツメ右ヲリ悦心ニテ下ニ居）実も菜と思ふなり

又

●（右ウケ）まして老の人の身に薬となる（正ヘ出）は何ともいかほども長寿
こゝろをそめてしきりを（足ヨセ正）実や（角ヘ行）あまりの（角ヨリ左廻り）あとをとゞむる

シテ舞附

●真ノ一声幕上ケツレ先ニ立杖ツキ出（水衣肩トラス初ヨリヲロシ出ル）橋掛ニテツレト向合ツメ足メ年を経しト謡フ●涼しきに謡キリ正●老の波ツレヘ向●ならぬに謡キリフタイヘ入リ正先ヘ二三足ホト出掛ニテアトヘ下リ上居ニテ足トメヲキキ、故人眠ト謡フ●谷の茅店ツレヘ向●らうろうとしてコソノソノ字ヨリツレト入カワリ中ヘ行足トメ正●此光のをまでワキヘ●勅使そのあるをとよツヘカタニアテ下ニヒザツキヲル（面下ケワキヘコトワル心）先れ親子の我までにへ（ワキ）扱も（立正）このほ

本巣の郡にぬしなきいにしへ
此老隠くし奉すなはちこそ
奏聞をこの宣旨にまかせ見まして
勅使を下さるゝありがたく
養老と名付そめし謂を委しく申
く（ミテ白）（ツレヘ向）さん候是に候は此者が子にて
候が朝夕山に入薪をとりて親を
育て候處にある時山路の疲れ
もみやこの水を何となく掬ひてのめば
（ワキヘ）常ならすすんで心も涼しく疲れも
たすかり（ツレセル）（正）さながら仙家の薬の
あまりかくやと思ひしられつゝやがて
家路に汲み運び父母に是をあたへ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

（サシ）大井川のおうれい詞をしく
ちうしも春まあのかいあくす日おう
しかぶ海ありたるといふ川きく
絶ふんひさしくすめるあふや
（下ニテ）落かをいためしも夏山乃下
水のまをすりこあるきをいを誰
うあくひさし（笛ノ方ニ同）（下ノ同）いとふ秋絶い
（上ノ同正）業いさくあひもをうん
龍宮城も竹業ハくく撰やみ
こうをうさぬくんこそ海うも
ふ萩花ハ林業春秋をくも
あうや番ふ七賢う樂ミまう伯
倫う敬ひたくひあふのこまうを

（内ヒリヨリ向ワキ云ヲカケル）
きめやくをふこまふ春のこめて
（正向）楼ん曲あて海ふあふむふ（立ニテ在ノ）
（クロキ）さいうをうくもふまんこうく
春もすかう訓て月を海ふやふん
（正ツレ向合）ふ月誠くまふよ（正上ゲ地）山海まく業ふ
あふふいうれ乃人ふ書ひし
（ニテ上）彭祖う業ふ（ニテ）ふ春海義書
書ひふ仙海秋更ーくう七百業
（ワキ）をふうまも藥のあうこやあを
（地正）実やくうくふ業の水を親ひめ
義書ふ（ニテ）ふ春秋海書あ
めふもう乃（地）（右ワキ）ひう業ふ程乃岬本
まくう（下ニテ）花咲宴あうふくう

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

北正
そもく〳〵といひながら シテ唯そ
西海のめくみふかく 北 春しめて 正ノ虫
八洲なみ 四つの海乃 正ノ虫 翁も着
なれこゝみあかるき 下ニ居ニゾツキ 春日神しも
て 下ニ見ル 降ふる雪の山の井未
立ノ切ヨリ左ヘトリ中行ヨキ向下ニ居 凍もうごかぬ 老の波
ふる水こゝろ 杜蘇しうも 観
ヨキ切正 寒梅 ヨキセル 勅額も
かゝやく 岩藻して かゝる 寺柏
ふく風も 上次 正 いひもの へ 松ふ

切三立
しきやな〳〵 左リ右フミニヲキ右ウケテ上ヲ見テ右ヘマワリシテ程ノ方ヘ行
天うり光うかゞや
きゝ〳〵 鶯の 宮もこゝ すゝろに 旁樂き
こゝ 花の 正ニヲキ 色 唯 正ニヲキ 春と思ふそんす
中入 出羽ノ一松ヨリ左ヘニヲキウケフ
有難や 治る 我の
らひこゝ 山の井水 初こそ 上松 正ニ直ノ
の風や 十日乃 あめも 正ニヲキ 雲 ふる五日
波 雪 いはし 正ニヲキ 玉 乃 葉
影 うら 葉 しげる 春 の 寺 端
西なる 上松 正ニ直ノ 笠 ひ 松 しげる
水 長 き 御代 代 松 守 日 かな ニテ下ヨリ右ウケ 影 を
北 正 北 又 松 神
親 寺 普 陀 ニテ 神 と ひ 北 佛 と
いひ ニテ 正ニヲキ 唯 笠 乃 波 乃 浦 かな。

地 元生海波其名後乃声 サン正ノ上ヲサシコミテ 峰乃
松しや谷のあ音 向ツヲヒ
上肩 袖ツユトリナカラ内ヘハ
柏木ゆるりへて音楽のひゝき
滝津こゝろ改しつゝ 左ウツムケ
ヲ正ヘ 袖ヒラキ 上ウケ 神子 杉繁て
千代とうのやうにこゝろうる 上地
大左右ヲ近ヒラキ
さゝよれ山の井ぞのゝ〳〵山乃
井ぞの シテ左ヲリニツニヲキ出 サン廻シヒラキ
あ滝〳〵こゝして源遠く
左ヘニワリ 大小ノ前ニテ
こゝろ滝の白糸 正ヘ直ン
右ヘニワリ
おゝ松ゆるく松波へ〳〵て 正ヘ出
おもゝ〳〵君ぜあ〳〵ゆ代こゝろ 栄
ヒラキ ユウケン
ゑ〳〵さも栄せしゝ君 右ヘニワリ
正ヘヒラキ
かひゝゆ〳〵玉のかこそも 村

又

此前ノ文句迄ヲ二ツ繰返シテよりノ廻シ
中ヘ行下ニ居実ハ名ノ有カケニツヲ
右ノ下ニヲキ正面右ノ手カケ迫扶ハ谷ノ
手ニモテヲル 扶モチ立テ
挿ヘクツロキ
滝ふかゝ井そ乃ふ・名ゝミふく狼ほてを 正出
左ノ袖 扶右ノ袖ニヲキ迄 筆ノ方高ナカラ
ゆるゝもよゝきゆ代ゝるゝや 太コ坐ノ方向
太コ坐ニテ
ユキ
ハワリ
両袖前ヘナケヒラキ
左ノ袖ハ谷ニ入
高峯の花ふ滝つゝ
正シカト見右ヲ立テ
トノ柏子袖ハ谷ニ入

ゆも滝〳〵流滝乃あのうもこゝろ波
正坐ナカラ左ヲシヒラキ
左ノ手ヒロゲ正横ニテ

又

ツヘ手前ヘ引ツヲキ面正ニ直 ヲキ中ニテ居ツ持ナカラ
左ノヒザツケヲヘ向キ 右ノヒザツケヲヘ向キ
居ル 持ツル
実も栄しとゐふより老の姿・実名りてこそ
ツヘステ正向扇ヲキ
左ヘ下リ中ヘ行

ノトリ立テ先腰ヲ
モトヘモドシテ面正ニ
直シ内ヘトリ両手
カケ扶ヲタヨリニ
ヲロス

ホコヲ引立テ
ヨコヲ引下ヲ見ル

ンヒラリと面ノ
左ヘ引立テ
ヨコヲ下ヲ見ル

左ヘニワリ
右ヘニワリ

ツヘ手前ヘ引ツヲキ面正ニ直
左ノヒザツケヲヘ向キ
居ル

左ヘ下リ中ヘ行

左ノヒザツケヲヘ向キ
右ノヒザツケヲヘ向キ
居ル

右ヘニワリ
左ヘニワリ

・滝ふかゝ井そ乃ふ・名ゝミふく狼ほてを
扶ヲ持ツ
扶ヲ持ツ

・花のふかゝまゝ衣の袂さゝ〳〵ゑゝる山の井の

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

養老

装束之覚

初シテ　面小牛尉　尉髪　着付小格子厚板　白大口
シテ水衣　袴子腰帯　扇　扶
連　放シ髪　着付厚キ目　水衣　腰帯
扇　水桶
後シテ　面邯鄲男　紅白段厚板　白大口　袴狩衣
紋付腰帯　赤地金入錦巻　黒垂　透冠
神扇
祝言之節ハ唐織ソホ折

ツレ舞附

・扇モチシテノ先ニ立出橋カリニテシテト向合ニ足ツメ謡フ・
終ル謡キリ正・充ノ段シテ向・勾ル謡キリフタイ入中
ニ行正向立ル・勾ル笠充ノシテ向・勾ル入カワリ目
分程ノ方ヘ行正向立ル・内ル謡ノワキ向・ヨルノ袖
ヲヘモシテ向・笠ヲ取ノ謡ノワキ向・笠ヲ正・笠ヲ
ナホ中ヘカケ左ヘトリクツロキツレ出ニ行下ニ居・イロヘ謡
ワルシテ向歩切ニツレ正面ニ並ス・ヨルヨリヨルシテ
ニ向歩切ニツレ正面ニ並ス中入ニシテノアトニツキ入ル

又

・妻附ノ通リ前後ヲヘテヨキニ中ニワズ正面向立ヨリテ
モヨシ又ヲロカヘ雲井トワキニ向ヲロカ下ニ居ギスルニヨハ
ズ只ワキヘ向キ下ニ居ル是ハシテノ心次第ナリ

初シテ妻附

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

養老の瀧とハ申也（ワキヘ二足ツメル）
さてハ有難（ワキ向 正）
瀧ハ今乃薬の水ぞ瀧川乃なかれて
これ乃王示乃ありやん（シテ向）瀧津（サシ右ウケ右ノ方見ル）
のみ見る岩間よりおちくる水の泉さへ（ワキ向 二足下リ正ヘセス）
瀧ハ見かけしもをそハ寒いたさよ
きく山乃井も（シテ）底もことに澄るさゝれ石
ゆ岩かくれふかく苔の子しとそ（ワキヘ）ら世
やちよ乃さかえも（シテ）末の
かゝる薬乃水（ワキヘ）総老を親（シテ）（ワキヘ二足ツメ）
老をとふやしなひまして盛乃人の（右ウケ）
身の薬こゝ何也も寿命を（正ヘイデ）
あまりきく泉をめでくりかえし（中 ワキヘ）（角トリ）
や玉水乃水上すめる御代そとて（左廻リ）

シテ舞附

水衣肩トラズ初
ヨリヲロシ出ル

・真ノ一声幕上ケツレ先ニ立杖ツキ出橋カヽリニテツレト向合
ツメ足メ手を通しト謡フ・添ふる謡キリ正・老乃
伎ツレヘ向・心うる謡キリフタイヘ入リ正先ヘ二三足ホト出
寺掛ニテアトヘ下リ上居ニテ足トメヲキキ、故人眠ト謡
フ・山を華店ツレヘ向・つくしてコソノコノ字ヨリツレト
入カワリ中ヘ行足トメ正・此方のるまでワキヘ・勅使
まで行るよツレヘカタメニアテ下ニヒサツキヲル・此杖子
の向下ケワキヘコトワル心・御ものうき葉の立正・さんいそこ
いハツレヘ向・彩ハ山入正・帯かれワキヘ・ゝゝ
心の正・よるの寝えもツレヘ・さもむをワキヘ

流るまの水を汲ひそふ行さ
よくと云ひ（ム）行ひ（ム）寺かきやうやうと遣り過ぐるを
さすがに今ぞそれともしるく薬水まさ
水ならねども雪ぢ川の流れ
絶もてゆくもなき水ぞあやしき流
老ぬるさへうれしきは消ぬる命
久しくもめぐるめぐりや　村雨
一向専　雲頭の行楽ハ夢　陰やみぞれと霊
ぬるんだ氷瀬の薬
とはなりや雪の七賢の楽ぶ劉伯倫

流るまの水を汲ひそふ行さ
よくと云ひ行ひ寺かきやうやうと遣り過ぐるを
さすがに今ぞそれともしるく薬水まさ
水ならねども雪ぢ川の流れ
絶もてゆくもなき水ぞあやしき流
老ぬるさへうれしきは消ぬる命
久しくもめぐるめぐりや　村雨
一向専　雲頭の行楽ハ夢　陰やみぞれと霊
ぬるんだ氷瀬の薬
とはなりや雪の七賢の楽ぶ劉伯倫

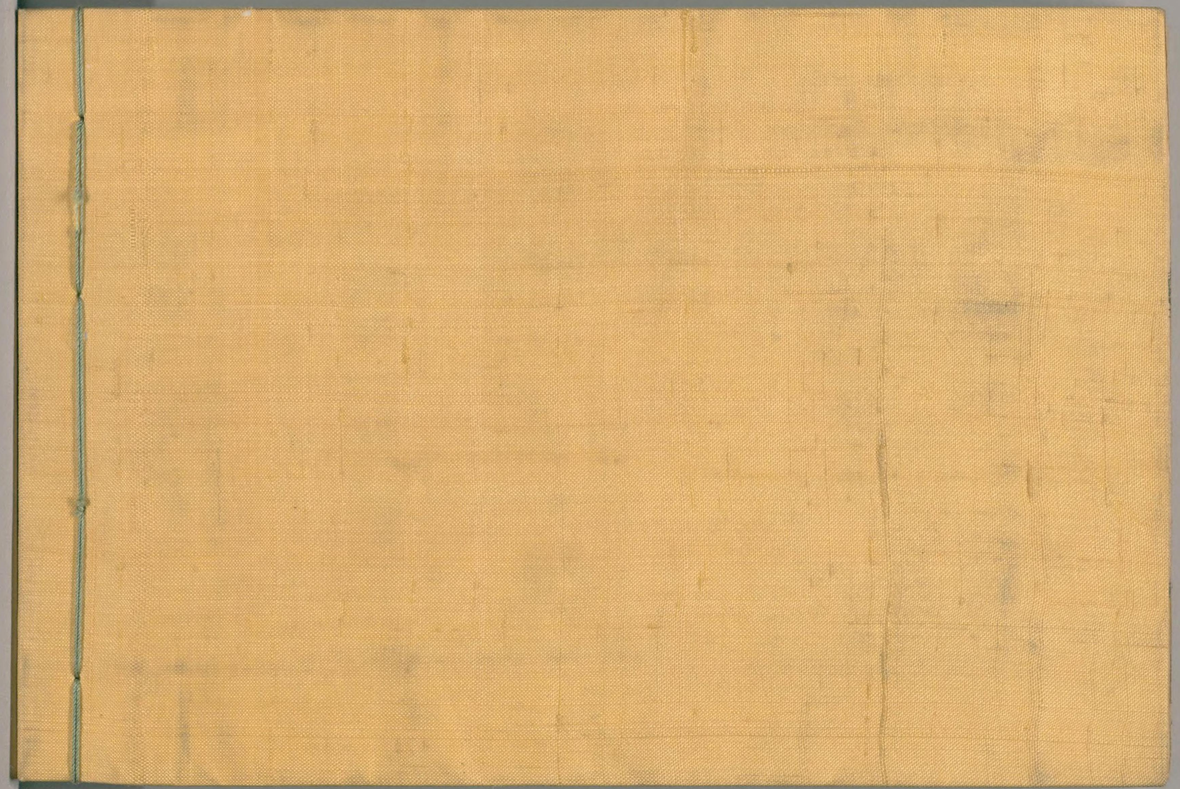
国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用